

学校法人イーエスピー学園
専門学校ESPエンタテインメント東京

2023年度 自己評価報告書

評価基準日 2024年 3月 31日

評価対象期間 自：2023年4月 1日

至：2024年3月31日

評価項目

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) . 教育理念・目的・育成人材像
 - (2) . 学校運営
 - (3) . 教育活動
 - (4) . 学修成果
 - (5) . 学生支援
 - (6) . 教育環境
 - (7) . 学生の受入れ募集
 - (8) . 財務
 - (9) . 法令等の遵守
 - (10) . 社会貢献・地域貢献
4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果



○自己評価委員会 構成

- ・委員長 村本 英之（総務部長）
- ・委員 土屋 匡弘（教務部長、兼音楽アーティスト科責任者）
亀田 秀幸（経理部アドバイザー）
袖嶋 浩之（総務部総務課 次長）
澤田 吉剛（企画広報課 係長）
横堀 耕祐（学生支援課 係長）
眞田 清嗣（総務課）

1. 学校の教育目標

【建学の精神】

音楽・楽器を創造することを通じて豊かな人格を形成し、さらに自己の可能性を追求する人材の育成。

【教育の理念】

建学の精神に基づき、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材の育成に力を注ぐ。

【目的】

当学園は、学校教育法及び本学園の教育理念に基づき、エンタテインメントに関する知識や技術を授け、人格の涵養のもと、個性と可能性を大きく伸ばした人材を育成することを以って、文化の向上と社会の発展に貢献することを目的とする。

【育成人材像】

感動を創造できる人材を育成する。それは以下のような人材像である。

1. 好奇心を持ち続け、常に課題（テーマ）を見つけ、解決することができる人材
2. 初心を忘れず、常に目標（夢）を持ち、達成し続ける人材。
3. コミュニケーションをとり、仲間と仕事をやり遂げることができる人材。

【運営方針】

- ・教育の理念に基づき、教員、設備、カリキュラム等、教育環境の充実を図る。
- ・学生との緊密な関係を築いていくために最大限の支援体制を構築する。

2. 本年度に定めた重点目標や計画

1. 現場主義に即したイベント研修、外部イベント研修等への参加体制強化
2. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化
3. 円滑な授業運営の土台となる実習室、教室の環境整備

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) .教育理念・目的・育成人材像

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
1 - 1	理念・目的・育成人材像は定められているか	✓			
<p>建学の精神、及び本学園の理念に沿った目的、育成人材像は前述の「1. 学校の教育目標」に記載の通り定めている。建学の精神と教育の理念はホームページやパンフレット等にも明示している。</p>					
1 - 2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	✓			
<p>当校の教員は基本的に現役の業界人で構成されており、授業計画はそういった教員の意見も反映して作成している。また、教育課程編成委員会を組織し、業界関係者の意見をはじめ、設立母体である(株)イー・エス・ピー、及びキャリアサポートセクションの情報も積極的に取り入れ、カリキュラムに反映していることから、適合していると判断する。</p>					
1 - 3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	✓			
<p>エンタテインメント業界への人材輩出を使命とする本校は、業界のニーズに対応するために、特色のある7学科26コースを設置しており、学科・コース全体がエンタテインメント業界の縮図となっている。また、教員には、教務課の意向に沿い、尚且つ時代のニーズに合ったカリキュラム改革にも意欲的な人材を適宜起用している。</p>					
1 - 4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか			✓	
<p>関連業界では、以前から基礎的な知識・技能に加え、コミュニケーション能力や、やる気を備えた人材を入社後に教育する育成方法が主流であり、現在でも引き続き、一部で同様の人材育成方法を取っている企業も少なくない。他方で、最近では現場での対応力に加え、普遍的な能力（業界マナー、関係部署に関する知識、PC関連スキル等）、専門的な知識・技能を持った人材が強く求められる傾向にある。特に、コロナ禍の影響により、現場ではこういった人材の不足に加え、後継者育成という課題も抱えており、早急に適切な人材の供給が求められている。上記に対して学校として将来構想を検討しており、授業の中で可能な限り普遍的な能力や専門技術習得についても指導している。</p>					
		評価者	土屋 匡弘		

(2) . 学校運営

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
2 - 5	理念等に沿った運営方針を定めているか	✓			
1. 学校の教育目標下部に記載の通り運営方針を定めており、本法人の理念や目的に沿った方針であると認識している。					
2 - 6	理念等を達成するための事業計画を定めているか		✓		
予算も含めた年度毎の計画が立てられ、実施されている。また、学科責任者によって構成される事業検討会では、将来のビジョンを共有し、情報交換や中長期の計画を協議している。					
2 - 7	設置法人は組織運営を適切に行っているか	✓			
理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録を作成し、格納している。					
2 - 8	学校運営のための組織を整備しているか	✓			
組織図、及び業務分掌規程を整備し、各部署の役割を明確にして運営を行っている。また、各種規程を整備し、必要に応じた会議、委員会を実施し、議事録を作成し格納している。					
2 - 9	人事・給与に関する制度を整備しているか		✓		
教職員選考、及び採用規程を整備し、適格に運用している。昇進・昇給の基準、及び人事考課制度を新たに検討し、年3回の人事考課を実施する際に、業績や業務内容、業務に取り組む姿勢等に応じて評価、及びフィードバックを実施している。					
2 - 10	意思決定システムを整備しているか	✓			
定期的に開催される上層部会議で意思決定が成され、議決事項は各部署、及び各学科運営に必要なレポートラインにて共有されている。					
2 - 11	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	✓			
infoClipperという学籍管理システムを導入しており、基本的なシステム構築は完了している。2022年から新しいシステムに切り替わったが、各署において徐々に扱いに慣れてきたと認識している。					
		評価者	土屋 匡弘		

(3) .教育活動

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
3 - 12	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	✓			
教育課程編成委員会規程を整備し、委員会を実施することで、エンタテインメント業界の最新の動向把握に努め、その為の知識や技術を習得できるよう図っている。尚、当該規程内に方針を明示している。					
3 - 13	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	✓			
各学科のシラバスに到達目標を明示している。また、資格取得を目指す学科においては当該資格取得者を教員とする等、支援体制の整備を行っている。					
3 - 14	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	✓			
教育課程編成委員会規程に教育課程編成に関する事項が明示されており、現行の教育課程は本校の目的に沿ったものだと認識している。					
3 - 15	教育課程について外部の意見を反映しているか	✓			
教育課程編成委員会、及びキャリアサポートセクションを通じた企業の担当者からいただいた意見を学科内で検討し、必要なものは適宜カリキュラムに反映している。					
3 - 16	キャリア教育を実施しているか	✓			
当学園の理念や、本校の目的や運営方針がキャリア教育を行う為のものとなっており、設備やライブ研修等、キャリア教育に相応しい内容であると認識している。					
3 - 17	授業評価を実施しているか		✓		
前期と後期に実施する試験に加え、学生へのアンケート調査や個別面談を実施し、学生の理解度を確認することによって、評価を行っている。さらに教務スタッフによる定期的な授業視察を実施し、授業の進め方に問題があれば適宜教員への指導を行っている。					
3 - 18	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか		✓		
学則には「詳細は別に定める」と記載しており、シラバスにも評価方法について明示している。シラバスは本校ホームページに公表しており、学生へも明示されている。					

(3) .教育活動の続き

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
3 - 19	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	✓			
学内で実施する作品コンテスト、発表イベントの他、外部イベントやオーディションの情報収集も行い、把握に努めている。					
3 - 20	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	✓			
資格、及び免許取得が可能な科目については、シラバス上で目標を明示している。また、資格取得に向けた特別講座も学内外に於いて実施している。					
3 - 21	資格・免許取得の指導体制はあるか		✓		
資格取得が可能な科目については、授業内、または特別講座において指導しており、体制として整備されている。昨今では、受験に対応するための一般教養や日常会話なども授業内で強化を図っている。					
3 - 22	資格・要件を備えた教員を確保しているか	✓			
エンタメ業界、及び楽器業界で活躍する者で、学校教育法上の欠格事由、並びに東京都暴力団排除条例等（反社排除）に定義される規制対象者に該当しないこと、さらに専修学校設置基準に定められている要件を満たしているかを確認し、教職員選考・採用規程に従い、面接等所定の審査を行い、教員を確保している。					
3 - 23	教員の資質向上への取組を行っているか		✓		
基本的に業界で活動している者を教員として採用しているが、教育の質を向上するための指導方法や学生との接し方について、教職員間で定期的に問題を共有し、教員への指導を行っている。ただし研修としての実施はスケジュール的に困難であり、現状は出来る範囲での対応に留まっている。					
3 - 24	教員の組織体制を整備しているか	✓			
各科、コースに主任を配置し、レポートラインも明確にすることで、組織体制維持や業務に必要な通達、及び情報も即時伝達できる体制を整備している。					
		評価者	土屋 匡弘		

(4) .学修成果

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
4 - 25	就職率の向上が図られているか	✓			
<p>キャリアサポートセクション（CSS）という学生就職支援部署を設置し、学生の就職サポートを行っている。CSSでは、企業へのアプローチ、求人依頼、企業説明会企画等を行っており、学生に対しては就職講義の他、個別相談対応、履歴書添削や面接練習などを行っている。卒業時に卒業生全員に対して進路調査を行っており、データ把握に努めている。グループ校、姉妹校と関連業界の動向などの情報を共有している。</p>					
4 - 26	資格取得率の向上が図られているか	✓			
<p>在学期間中に資格取得のための筆記、及び実技対策講座を各科各コースにおいて適宜実施している。また、有資格者を教員として配置する等前述の対策講座以外にも通常授業内でも充実を図っている。いま現場で必要な資格が取得できるよう、企業の声を反映している。</p>					
4 - 27	卒業生の社会的評価を把握しているか		✓		
<p>学生支援課において業界、企業との接点を多く持ち、各所で活躍する卒業生たちの動向把握、評価情報の収集を行うことによってその評価を確認している。</p>					
		評価者	横堀 耕祐		

(5) . 学生支援

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
5 - 28	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	✓			
<p>学生支援課内に専門部署となるデビューサポートセクション(音楽・芸能活動支援部署)、キャリアサポートセクション(就職支援部署)を設け、進路に関するサポート体制を構築している。またこれらは常に学科教務と連携して学生指導にあたっている。</p> <p>前述の通りの就職指導、及びオーディション等の情報管理、主催オーディション運営、各種サポートを行えるよう体制整備を行っている。</p>					
5 - 29	退学率の低減が図られているか		✓		
<p>進級、及び卒業に必要な出席率を下回った学生から優先的に個別面談を実施している。保護者へも必要に応じて連絡をすることで、家庭内からも就学に向けて協力を促している。学習面において出席率や成績により補講を実施している。また、心理面でのケアが必要な学生には後述の相談室を案内している。毎年授業アンケートを実施し、学生の声を反映している。</p>					
5 - 30	学生相談に関する体制を整備しているか	✓			
<p>各学科教務、また学生支援課では、定期に個別面談を行う他、何か相談の申し出があった際にはその都度個別相談に応じる体制を敷いている。学校の職員・講師や家族・友人等の身の回りの人に相談しづらいケースについては、毎週木曜日に外部のカウンセラーによる相談室を開催し、対応している。相談内容によっては専門の病院を案内する場合もある。相談室はZOOMを使用したオンラインにも対応しており、現状では十分な対応が出来ていると認識している。</p>					
5 - 31	留学生に対する相談体制を整備しているか	✓			
<p>学生支援課内に国際コミュニケーションセンター（ICC）を設置し、入学前～在学時～卒業後も、常時どのような相談も受け付けており、専任の職員が個別に対応を行う体制を作っている。外国人の職員も勤務しており、外国語での対応が必要なケースにも対応している。</p>					

(5) . 学生支援の続き

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
5 - 32	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	✓			
<p>学校独自の奨学金制度としてイーエスピー学園卒業生・在校生兄弟姉妹特別奨学生という制度と、E S P 学園特待生奨学金制度を整備している。</p> <p>さらに現状で年間2期での分納が認められているが、やむを得ない場合（ローン等申込が不承認等）に更なる分割も条件付き特例で認める場合がある。</p> <p>条件付き特例で認める分割以外についてはホームページ、掲示板等で告知し、経済面での質問は専任の職員によって一括管理されている。</p> <p>また、修学支援新制度の対象校として確認されており、給付奨学金、授業料等減免が受けられる体制となっている。</p>					
5 - 33	学生の健康管理を行う体制を整備しているか		✓		
<p>毎年全学生を対象とした健康診断を実施している。体調不良による欠席者の対応で、必要な場合は医療機関の受診を勧める場合もある。</p> <p>常設の保健室を整備し、利用可能なスペースは確保してあるが、専門職員の配置はしていない。</p> <p>また、学校医として外部医院の医師を選任し、委託している。</p>					
5 - 34	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	✓			
<p>学生寮等の運営をしている複数の会社と提携し、整備されている。</p>					
5 - 35	課外活動に対する支援体制を整備しているか	✓			
<p>クラブ活動には必ず教職員が顧問となり、活動状況の把握に努めている。また、発表会等も行っており、随時教職員が引率し、管理している。</p> <p>また、学外での活動サポートとして、学外のライブハウスを定期的に借りてライブイベントを企画・開催し、その際に発生したチケット代は参加バンドへ100%還元している。</p>					
5 - 36	保護者との連携体制を構築しているか	✓			
<p>教育活動に関する情報は期末に行われる試験の個別成績発送の際に共有し、保護者と連携した指導を行う。また、保護者の方が直接来校された際には学科責任者及びそれに準ずる者が対応している。</p> <p>緊急時には情報管理システムに登録されている情報から保護者の方へ個別に連絡する。</p>					

(5) . 学生支援の続き

5 - 37	卒業生への支援体制を整備しているか	✓			
<p>卒業後もデビューサポートセクション(音楽・芸能活動支援部署)、キャリアサポートセクション(就職支援部署)の利用が可能で、転職のサポートや新たな活動の場となるオーディション情報の提供など、在学生同様に支援する体制を敷いている。</p> <p>また、卒業後もデビュー情報の提供を希望する人は、事前にデビューサポートセクションに登録することで、デビュー（オーディション）情報をメルマガ配信している。</p>					
5 - 38	産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか				✓
<p>エンタテインメント業界の企業の意見としても「現場で学ぶのが一番」という声があり、採用選考の過程においてもインターンシップ等が実施されることも多く、卒業後に改めて産学連携による再教育を行うことへのニーズが無いと認識しているため、現状は実施していない。</p>					
5 - 39	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか				✓
<p>社会人経験者の入学は問題ないが、働きながら履修できる体制は取っておらず、社会人学生や、聴講生が入学できる体制を整備していない。</p> <p>また、本校で以前に社会人や就学前の人を対象とした付帯事業を行っていたが、利用者が少なく、社会人のニーズが無いものと判断し、現在では募集停止状態となっている。</p>					
		評価者	横堀 耕祐		

(6) . 教育環境

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
6 - 40	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	✓			
各学科、各コースにおける必要な設備等は整備されており、関係法令上の基準に適合し、充実していると認識。また、卒業生にも一部施設利用を可能としている。					
6 - 41	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		✓		
取引企業からいただく学外実習、インターンは大切な学生経験の一部と位置付け、積極的な参加を促している。その他企業見学、会社訪問、また海外姉妹校への研修制度なども実施している。但し、教育課程上の位置付けを明確にすることが難しく、参加後のレポート提出等で授業への出席扱いとしている。					
6 - 42	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか			✓	
各校舎等も耐震化に対応済みであり、消防設備の保守点検を法令に基づき行っている。防災計画、及び関連マニュアルの整備はされているが、内容の更新、拡充が必要であると判断し、改定版の作成を進めている。改訂版完成後に教職員及び学生への周知を行う予定。					
6 - 43	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか			✓	
<p>学校安全計画を保健計画と並行して策定（学校保健・安全管理マニュアル）しており、運用している。</p> <p>また、防犯マニュアルを策定しており、学校安全計画及び関連マニュアルも整備はされているが内容の更新、拡充が必要であると判断し、改定版の作成を進めている。改訂版完成後に教職員及び学生への周知を行う予定。</p> <p>その他、衛生管理者による巡回、指導を実施し、安全管理に対する意識付けと環境整備をを常時行っている。</p>					
		評価者	袖嶋 浩之		

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
7 - 44	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	✓			
高等学校等の進路説明会に可能な限り参加し、教育活動等の情報提供を定期的に行っている。また軽音連盟とも連携しており、イベントの際には協力し、その際に情報提供を行っている。					
7 - 45	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか		✓		
本校においては4月入学のみであり、それに向けた願書受付としてAO入試、推薦入試、一般入試を実施しており、各入試の実施時期は東専各からの通達に則して行っている。 学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパスに関して、開催回数の効果的な設定、体験授業、学校説明会の内容を充実させることを常に検証し改善を行っている。					
7 - 46	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	✓			
入学選考基準、方法は学則に明記されており、募集要項、本校ホームページにて明確化している。 上記の情報に沿って運用している。					
7 - 47	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	✓			
合格率、辞退率のデータは毎年蓄積し、管理されている。 また入学者の人数、傾向を入学前に実施する特別授業・レベルチェック・個別面談で把握し、それを元にクラス分け、教室割を適切に実施している。					
7 - 48	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	✓			
学納金の算定内容、決定過程は明確にし、学則変更、及び学納金変更申請時に提出している。 学校パンフレット、募集要項、ホームページ等に学納金等徴収する金額は明記している。 また、学納金の水準は適宜把握に努めている。					
7 - 49	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	✓			
入学辞退者に対して、年度開始前までにその意思を示した場合には、入学金を除く学費を返金する旨を募集要項、及び入学金等納入のご案内にて周知している。					
		評価者	澤田 吉剛		

(8) . 財務

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
8 - 50	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか		✓		
自己資金で設備投資を行うなど、財務基盤は安定している。					
8 - 51	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	✓			
継続的に財務分析を行い、財務基盤の安定を図っている。					
8 - 52	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	✓			
各部署から当該年度の予算を提出し、それらを精査する段階で事業計画との整合性を図り、編成したものを評議員会の諮問を経て、理事会の承認を取っている。					
8 - 53	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	✓			
事業計画の予算に対して、決算で大きな乖離は生じていない。予算執行にあたっては上申書、立案書などを理事長が最終承認を行う体制を執っている。					
8 - 54	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実行しているか	✓			
監事による監査を実施し、理事会において報告が行われている。					
8 - 55	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	✓			
財務情報を当学園ホームページに公開を行っている。					
		評価者	亀田 秀幸		

(9) . 法令等の遵守

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
9 - 56	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	✓			
学則改正は適宜所轄庁へ届出を行っており、都から承認されている寄附行為に則して理事会・評議員会を開催、実施して学校運営を行っている。各種規程、及びマニュアル等を法令に則した形で整備し適切に運用している事で、高等教育の修学支援新制度の対象機関として認められている。					
9 - 57	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	✓			
個人情報の保護に関する法律に則して個人情報保護規程を整備し、適切に運用している。また、管理システムは通常のインターネットからは隔離したネットワークを構築し、外部からのアクセス等に備えた危機管理を行っている。					
9 - 58	自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	✓			
本校の学則に明記して学校評価実施規程を整備し、実施にあたっては当該規定に則り各科、各部門担当者や評価委員で自己評価を行い、委員全員で精査している。					
9 - 59	自己評価結果を公表しているか	✓			
評価結果については本報告書の通り取りまとめており、本報告書については本校ホームページの情報公開ページで公表している。					
9 - 60	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	✓			
自己評価と同様に本校学則に明記して学校評価実施規程を整備し、関連業界や地元企業関係者、接続する学校の教職員、及び保護者等から委員にご就任いただいて、学校関係者評価委員会を毎年度実施している。					
9 - 61	学校関係者評価結果を公表しているか	✓			
評価結果については委員の皆様からのご意見を取りまとめて報告書を作成し、報告書については本校ホームページの情報公開ページで公表している。					
9 - 62	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	✓			
ホームページ、パンフレット等にて公開されている。					
		評価者	眞田 清嗣		

(10) .社会貢献・地域貢献

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
10 - 63	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		✓		
<p>年に一回、町内会の地域イベントにおいて、音響機材の設置やMC等ステージ登壇者の手配等の協力をしている。</p> <p>また、外部（高校軽音楽部やエンタメ業界企業等）から施設利用の依頼があった場合に、授業に影響が無い範囲で各種教室やホールの貸し出しを行っている。</p> <p>その他、授業の一環としてはあるが、管楽器リペア科において管楽器の点検修理を行い、これを寄贈する活動へ協力している。</p>					
10 - 64	国際交流に取り組んでいるか	✓			
<p>ハリウッドにある姉妹校及び韓国の有名ダンススクールとの海外研修プログラムを整備している。また、海外に向けた学校情報の発信を積極的に行い、留学生を受け入れている。</p>					
10 - 65	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか				✓
<p>特に学校として奨励することはしていないが、学校に届く募集情報の公開を行っている。</p> <p>尚、規程や規則等に明記はしていないが、学生個々より活動の申し出のあった際には、授業の調整や公欠等の活動支援を検討する体制はある。</p>					
		評価者	横堀 耕祐		

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. 学校の教育目標に対して

本校の教育目標は建学の精神、教育の理念、目的、育成人物像、運営方針の5項目から成っていますが、移り変わりの激しいエンタテインメントに関わる学校として、その流れに柔軟な解釈力を持って5項目に対峙することが重要であると考えております。そして文面を提示するだけでなく、どのように解釈しているかを教職員間で共有することで、初めてそれが教育目標として成立するものだと捉えています。

そのような観点からするとまだまだ上辺をなぞるに留まっているのが現状であり、教育目標の達成度を見極めるためには、1年毎、年度始の深いコミュニケーションが必要であると感じる自己評価となりました。

2. 本年度に定めた重点目標や計画に対して

1. 現場主義に即したイベント研修、外部イベント研修等への参加体制強化

学校内、エンタテインメント業界ともに、多くのイベントが通常開催になったこともあり、学生が参加できるインフラは整ってきました。ただ、学生自身が積極的に参加している様子が見えてこないこともあり、今後の指導にどう落とし込んでいくかが重要であると考えています。

2. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化

長欠者対応等、教職員が連携して前年度以上に丁寧に取り組んでいましたが、結果として数字の向上には至りませんでした。一度興味の外れた学生を出席させるのは大変難しいため、そもそも長欠者を出さない授業、イベント、学生支援体制を確立させることが急務であると感じております。

3. 円滑な授業運営の土台となる実習室、教室の環境整備

経年劣化等による大規模修繕が必要となる校舎、老朽化が見受けられる教具、校具等、中長期にわたる修繕と入替の計画を立て、着々と実行してきました。

3. 来年度重点目標・計画

1. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化

- ・ 学生個別の対応強化
- ・ 施設、設備等の教育環境整備
- ・ 家庭（保護者）と学校との連携強化

2. 防災、防犯等各種マニュアル類の見直し、改定と周知